

今月の

いきもの広場

1 クロテンフユシャク



フユシャク（冬尺蠖）という名前の通り、冬に活動する変わったいきものです。メス（上）には羽が無く、オス（下）が夜中に飛び回ってメスを探します。このオスメスは微妙な距離感ですが、果たしてペアになれたでしょうか？



2 ハラビロカマキリの卵鞘

カマキリの卵は、卵鞘とよばれる硬いスポンジのようなものにつつまれています。卵鞘の形にはカマキリの種類による特徴があり、ハラビロカマキリの場合は、矢印のように突起が出ています。



3 オオカマキリの卵鞘

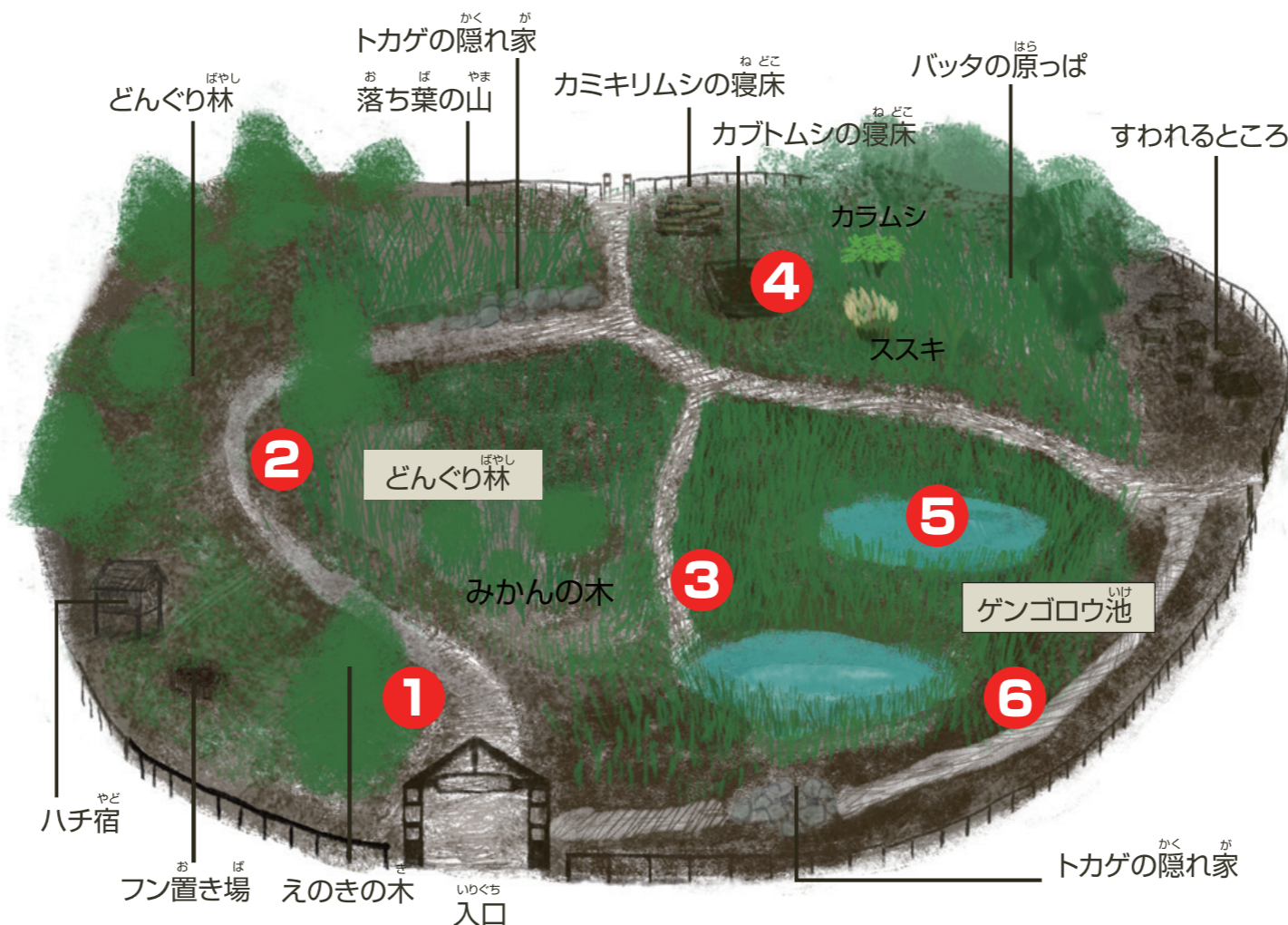
オオカマキリの卵鞘は、明るい色とその大きさが特徴です。スポンジのように柔らかそうな見た目ですが、触ると硬くてしっかりしていることが分かります。



4 カブトムシの幼虫

さなぎの一步手前の3齢幼虫に成長しました。冬の間は、今までよりも深いところにいるので、探すのにも根気が必要になります。

いきもの広場は、動物園の中に作った「近所の自然」です。広場のなかには様々な環境や生き物と出会うための小さな仕掛けがたくさんあります。現在いきものたちは冬越しの真っ最中です。ほとんどのいきものがじっと隠れていますが、中には冬にだけ活動する変わったいきものもいます。



6 コミミスクの幼虫



コナラやクヌギの枝先にべったりと貼り付いて隠れています。幼虫には羽がないので、飛べません。そのため一度見つけたら近くでまた見つけることができます。

5 ギンヤンマのなかまのヤゴ



今年もギンヤンマのヤゴが見つかりました。ゲンゴロウ池で見つかる中では一番大きく、水中では落ち葉や水草につかまっているようです。他にも泥の中にはシオカラトンボやコノシメトンボと見られるヤゴがいました。